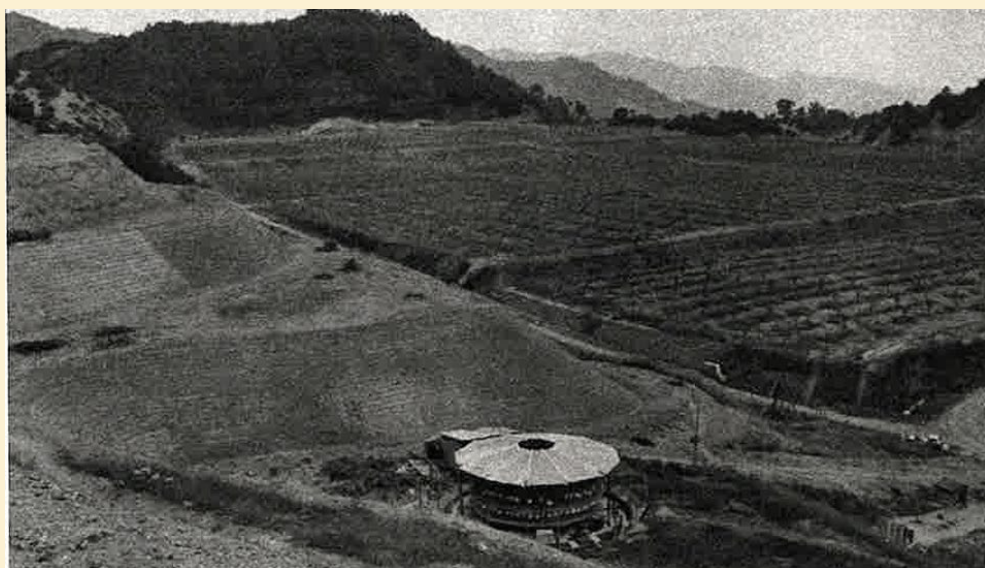


『季節の宅配便』

附属農場今昔物語

近畿大学は2025年に創立100周年を迎えます。附属農場も1952年の開設以来、柑橘や熱帯果樹をはじめとする作物の栽培研究や地域貢献に取り組んできました。今号はその歴史の移り変わりをご紹介します。

1960年頃



大型機械による農地造成工事を行い、丘陵地をテラス状の圃場へと生まれ変えさせた。その後、幹線農道・管理道を設置し、6,500本のミカン樹を植えた。



2025年



ミカンのみならず、1987年からはマンゴーの栽培研究を開始。2015年には「柑橘遺伝資源保存園」を開園し、研究者や一般見学者にも開かれた大学農場の第一歩を記す。